

# 水茎・元水茎地区水害経験と備える知恵(詳細版)

資料4



日野川  
昭和34年洪水時、「だいら」(堤防の中にある中段)まで、水が来ると「危ない」と判断していた。

昭和34年洪水時  
決壊箇所

昭和34年洪水時、森に水があたり水茎方向に洪水が流れた。

決壊場所付近  
野村と小田の境  
昔から「キレシヨ」と呼ばれていた。  
[昭和34年]

湖岸にある水あげ場。  
昭和34年洪水時、10cm程度水浸水した。  
[現在]

昭和34年伊勢湾台風時  
[昭和34年] [現在]

元水茎と牧の境目。牧地区の方が、堤防のように2m程度地盤が高くなっている。  
[現在]

昭和34年洪水時、野村と水茎の間を通る国道等が少し高くなっているため、一時的に堤防の役割をした。

昭和34年洪水時、たんすを倒して、その上に寝具などを置いて、水に浸からないようにした。

昭和34年洪水時、水は屋根の上のあたりまで来た(2m程度浸水した。)。水は、約一ヶ月引かなかった。  
[現在]

野村では、半鐘を鳴らして決壊を知らせた。水茎町の家にもその鐘の音は聞こえた。

昭和34年洪水時、舟で、元水茎、水茎の家のお年寄り子どもたちの避難を呼びかけた。

キレシヨのところは、堤防が低く、土が砂だった。増水すると、よく水が吹き出していた。堤防が少し低くなっていた。

野村と小田の境目  
昭和34年の伊勢湾台風時は、「キレシヨが危ない」という理由で、7、8名の消防団が土嚢積みをしていた。

昭和34年洪水時の決壊の原因は、木製の古川橋が流され、下流の仁保橋に引っかかり、そこから水が流れた。



詳細情報は滋賀県のホームページで公開しています。  
URL:<http://www.pref.shiga.jp/h/ryuiki/hanran/index.html>

凡例

- : これまでに破壊、越水、浸水が発生した場所
- : 水害に対する知識を確認できる場所
- : 過去の水害に対する詳細情報
- : 水害に対する知識の詳細情報
- ← : 過去の水害時のはん濫水の流れ



# 小川町、種町地区水害経験と備える知恵(詳細版)

### 凡例

- : これまでに破壊、越水、浸水が発生した場所
- : 水害に対する知識を確認できる場所
- (黄色) : 過去の水害に対する詳細情報
- (緑色) : 水害に対する知恵の詳細情報
- ← (青) : 過去の水害時のはん濫水の流れ

**下流での決壊**  
昭和28年洪水時、  
・下流の福堂が決壊した。  
・小中の堤防が切れて浸水した。

昭和28年、昭和34年の洪水で葉枝見橋が流された。

昭和34年洪水時の葉枝見橋付近川が曲がっている。「ごが」「ごがまち」と呼ばれ、5つ(今村、小川、鉢光寺、川南、阿弥陀堂町)の集落が集まり、この付近を集中的に警備した。石碑があった。

**水害写真**  
琵琶湖の方角を望む。




[昭和34年]



[現在]

・明治時代の洪水による決壊後、霞堤がつくられた(大正時代)。



[現在]


**昭和28年洪水**  
・一階のふすまの10cmほど上まで、水が来た。  
・種町は、床上浸水。  
・夜の7時頃浸水が発生し、翌朝には水が引いた。

大同川からの浸水によって、田んぼが水没することがあった(一年に2、3回程度)。



[昭和34年台風7号]

集落内には、床上浸水の被害があった。



[昭和34年]

昭和28年、愛知川神郷町が決壊し、洪水が発生した。

八宮赤山神社  
明治29年の洪水記念碑あり

昭和34年、大同川の決壊で、洪水が発生した。

**大同川**  
・昔の大同川は、堤防がなく、すぐ溢れる。  
・特に水防活動はしない。  
・土嚢を積みこいたことがある。

平成2年台風19号  
新墓地の墓石は水没し、上の部分しか見えなかった。

明治時代に決壊


ドリームハイツのある場所は、JRの線路周辺から、水が逆流して、浸水する場所である。

昭和28年洪水  
今町が床下浸水した。

明治時代に決壊

明治時代に決壊

**水害写真**  
JR能登川駅の方角を望む。



[昭和34年]



[現在]

昭和28年洪水  
JRの駅は少し地盤が高くなっている。「堤防が切れた」と聞いて、JRの駅に避難した。

集落付近は、少し地盤が高い。

**警戒の目安**  
・危険かどうかの判断は、雨量である。風も注意が必要。  
・堤防に水が上がって来たら、堤防が崩れるため危険。  
・特に目安はなく、川原に出て、川の様子を見る。

東近江市小川町1【ごが】

位置図




伝承・言い伝え

【ごが】  
愛知川の葉枝見橋付近は、川が曲がっていて、一番危険な場所。大水の時は、この場所に愛知川の左岸側の5つの在り(今、小川、鉢光寺、川南、阿弥陀堂)が集まり、水防活動を行った。この場所を「ごが」と呼んだ。昔は堤防に、「ごが」を刻する石碑があった。


▼東近江市小川町のその他の伝承・言い伝え  
・八宮赤山神社

【HP掲載内容(水害に備える知恵)】

**本行寺・現在**  
・本行寺は、地盤が高いため、明治時代の水害では、避難所になった。  
・昭和28年の水害では、御拝の三段目と四段目の中間まで水が来た。



**公民館**  
・太鼓部屋に、太鼓と鐘があった。  
・非常召集の時は、鐘を早く叩いて合図する(呼びぶれ)。



・左岸は低い。  
・きちんとした堤防がなかった。

**昭和28年洪水決壊場所**



**先人からの教え**  
「北風の暴風雨が吹きつけいたら、愛知川が増水する」

詳細情報は滋賀県のホームページで公開しています。  
URL:<http://www.pref.shiga.jp/h/ryuiki/hanran/index.html>





# 木津地区水害経験と備える知恵(詳細版)

昭和28年13号台風時  
 ・床下浸水になった。  
 ・床上浸水になりそうだったので、畳を上げた。  
 ・一年に1~2回は、床下浸水した。

昭和28年13号台風時  
 膝まで浸水した。

・日野川の河原にある竹やぶの竹を半分切って折リ、木流しをしていた。  
 ・竹を折って、水をはねさせた。

・大水の時、日野川が増水すると、野田川から流れてくる水が溜まる場所である。

昭和28年13号台風時  
 ・田んぼが浸水した。  
 ・河原と同じように水が流れ、完全な川になっていた。

川戸  
 ・三在川の水を家に引き込んで利用していた。  
 ・三在川が増水すると、川戸から水が入ってきた。  
 ・川戸からの水を止めるために、管に赤土をつめた。  
 ・各家庭で、赤土を常時準備していた。

昭和28年洪水時  
 野田川の堤防  
 ・この辺りは、土を簡単にもった堤防がつくられている。  
 ・増水するとすぐに溢れる。  
 ・堤防が切れかけたことがある。

昭和28年決壊場所

法興寺  
 昭和28年13号台風時  
 ・集落で一番高い場所であり、避難所になった。

昭和28年13号台風時  
 ・橋には、柵がなかった。避難する人のために、端にロープを渡し、それをつたって避難した。

法興寺へ続く橋  
 ・昭和28年13号台風では、腰まで浸水した。

集落の中で極端に低い場所。  
 よく浸水していた。

木津橋の当番  
 ・木津橋は木の橋だった。橋の板は、増水すると流されてしまった。  
 ・当番を決めて、橋板の管理をしていた。橋板が流されると、下流まで探しに行った。  
 ・あっという間に増水してしまうので、橋の様子を見にいった大丈夫と思っても、橋板が流されることがあった。

左岸は、昔、決壊した。  
 「うちがわら決壊」と書かれた資料がある。

蛇かご  
 ・蛇かごを設置していた。  
 ・左岸の堤防が低い

【水害HP掲載内容(体験者の語り)】

昭和28年13号台風時、木津地区で発生した水害の体験者の語り。当時の状況や被害の深刻さを伝えている。

【水害HP掲載内容(水害に備える知恵)】

水害に備えるための具体的な知恵や対策を紹介している。地域特有の対策や過去の経験から得た教訓が盛り込まれている。

凡例

- : これまでに破壊、越水、浸水が発生した場所
- : 水害に対する知識を確認できる場所
- (黄色) : 過去の水害に対する詳細情報
- (緑色) : 水害に対する知恵の詳細情報
- ← (青) : 過去の水害時のはん濫水の流れ

詳細情報は滋賀県のホームページで公開しています。  
 URL:<http://www.pref.shiga.jp/h/ryuiki/hanran/index.html>

